

湧心館高等学校(通信制) 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標	
1	本県の「教育指導の重点」及び「取組の方向」を基本に据え、校訓「自主」「責任」「創造」に則った教育実践を行う。
2	全日制・定時制・通信制各課程の単位制の特徴を生かした多様な学びの中で、生徒の特性を踏まえてその資質や能力を最大限に伸ばす。

2 本年度の重点目標	
1	確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む (1) 主体的・対話的で深い学びの中で、思考力、判断力、表現力を育む。 (2) 基礎・基本を定着させ、併せて個に応じた教科学習指導を行う。 (3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、併せて個に応じた進路指導を行う。
2	道徳性と豊かな情操を育む (1) 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める態度を育む。 (2) 規範意識を身に付け善悪を判断し自ら律する力を育む。 (3) 我が国の伝統と文化を尊重する態度とグローバルな視点を育む。
3	心身の健康を自己管理する態度を養う (1) 正しい食習慣と生活習慣を身に付けさせる。 (2) 運動に親しむ態度を育み体力を向上させる。 (3) 危険を予測回避する力を向上させる。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	広報・募集活動の推進	後期入学を含む本校通信制教育のシステム・特色等を周知徹底し、入学生徒数増を図る	前・後期(新入学・転編入学等)入学者数の現状維持を目指す	・体験入学実施 ・中・高校へポスター配付 ・メール配信、HP活用 ・中学校、高校への学校訪問 ・説明会実施等 ・「図南」を広報誌と位置づけ、適宜配付	B	入学生徒総数は232人(昨年度227人)であった。県内の中学校及び高等学校宛てに体験入学及び学校説明会案内をメール送信した。体験入学は前期94人・後期82人(引率保護者含む)と好評であった。学校説明会も全職員であたることのできた。
	生徒の自学自習力及び自主性を向上させる	生徒の自学自習力及び自主性を向上させる	1 年次生の進級率を55%以上とする 2、3 年次生の進級率を85%以上とする 全体の進級率を75%以上とする	・担任面談、生徒相談徹底、学習支援充実 ・学年集会の実施・進路指導の充実 ・学校情報発信の工夫・改善及び周知徹底	B	スクーリング時のSHR・LHRにおける指導とともに、家庭への連絡、クラスや学年による連絡等の配布及び周知を丁寧に行った。学年集会の実施には至らなかった。進級率は1 年次生お

						よび全体で目標を大幅に上回った。
	協力校の教育活動の充実	協力校生徒に対する生徒相談・進路指導・学習支援等の充実を図る	希望する生徒全員の進路実現を目指す 全学年次の進級率を70%以上とする	・地域のハローワーク、ジョブカフェなどの活用 ・進路相談充実 ・生徒相談充実	B	就職に向けて新しい取組ができた。今後は、すべての協力校で実施できるように取り組みたい。
学力向上	生徒の自己管理・自己責任による「自学・自習」の徹底（自主・責任）	レポートの提出率を上げ、進級・卒業率向上につなげる	レポートの提出率を全教科で前年度比5%増を目指す	・学習会、HP等によるレポート作成支援 ・担任・教科担任等による生徒への自己管理指導の徹底	C	現在のところ、昨年度の提出率75.9%に対し、2月4日現在で72.2%、最終的には昨年度と同じ見込みである。昨年度同様、平日登校できない生徒への対応が課題である。
	学習会の活用推進	学習会の活用により、進級率向上や進路実現につなげる	資格取得率、進学・就職率の前年度比5%増を目指す	・内容及び指導の充実・生徒への周知徹底	B	レポート提出に向けた自学自習や質問に来る生徒が増加傾向にあり、一定の効果はあると考えている。
	生徒の情報活用能力の育成推進	教職員のICT活用指導能力等の向上を図る	教員のICT活用指導力チェックリストにおいて「ややできる」「わりにできる」職員100%を目指す	・職員研修の充実及び授業実践の共有	C	教員のICT活用指導力チェックリストにおいて「ややできる」「わりにできる」職員は70.2%であった。職員研修は3課程合同で1回実施した。
キャリア教育（進路指導）	進路意識・職業意識の向上	入学時から計画的・組織的進路指導を実施、生徒の意識向上を図る	新規の進路決定を必要とする生徒全員を対象とする進路指導の充実	・就職ゼミにおいて就職キャリアアドバイザーを活用し個人指導を充実させる	B	進路別説明会や合格体験発表会、キャリアアドバイザーと連携して進路選択の手がかりとなる取組ができた。
	体験学習の充実	体験学習を通して、生徒の卒業後の社会的自立支援を行う	進路決定を次年度に控えた生徒全員を対象とした体験学習の実施	・ハローワークの活用 ・生徒の希望に沿った専門学校等の職業体験学習を実施	B	積極的にハローワークを利用し、就職内定に至った。職業体験は看護体験のみに留まったものの、希望に沿って実施することができた。
	進路決定率の向上	進路相談、進路学習指導の充実を図り、生徒の進路実現を支援する	新規の就職・進学率の前年度比5%増を目指す	・学習会（個別指導・模試・検定等）による進路学習支援の充実	C	個別指導から合格・内定に繋がったが参加者は少なかった。模試についても参加を増やしたい。

生徒指導	コミュニケーション能力の向上	学校行事など特別活動への出席率向上	行事等への参加率を前年度比5%増とする	・学校行事、特別活動の内容・方法等の改善 ・生徒への周知徹底	B	年度初めに、全校集会に関するマニュアルを作成し、各行事で実施することができた。
	生徒の主体性の向上（自主・創造）	生徒会活動など、生徒が主体的に参加できる行事の充実	・学校行事でのマナーの徹底 学校行事の参加率の前年度比5%増を目指す	・生徒会執行部の生徒の育成 ・生徒が参加できる行事内容への工夫改善 ・「図南」を生徒の活躍が見える紙面にする	B	生徒会活動に対する意欲向上に向けた取組ができ、生徒会の人数も増えた。
人権教育の推進	生徒相談・生徒理解の充実	学級の枠を超えて相談できる体制を整備する	全校生徒を対象に、半期2回以上の個人面談を実施し、S・C・SSW活用を推進する	・生徒・保護者全員への相談窓口の周知 ・生徒全員の定期的な担任面談実施	B	生徒理解研修を通して職員間の情報交換を行うことができ、生徒の対応に役立った。SSWやSCを活用することができた。
	全生徒を対象とした人権教育の推進	お互いの考えを伝え、理解するコミュニケーション能力の育成	校内の生活体験発表会や県の定通文化大会への前年度以上の参加率の達成	・総合学習やLHRの活用	C	総合学習等を活用して人権教育講演会が実施できたが、LHRでの活用が時間的に難しい部分があった。
	命を大切にすることを育む指導	全ての教育活動における働きかけを通じた、生徒・職員の自他尊重の感覚の育成	人権尊重を基盤にした授業、特別活動等の実施 職員自身の人権感覚と実践力の向上	・啓発資料の発行と活用 ・校内外での研修への参加 ・テーマに沿った生徒向け講演の実施	C	啓発資料の発行には至らなかった。各教科における人権教育への取組について情報交換できた。全職員が校外研修に参加して人権感覚を磨くことができた。
いじめの防止等	いじめ等の問題行動の未然防止	生徒指導・学年部を中心に組織的対応の徹底	年2回の全体調査及び個人面談実施	・定期的な担任面談、巡回指導、登校指導等の徹底	B	計画通り実施でき、生徒の悩みを聴くことができた。
		生徒・保護者・職員間の共通理解を深める	保護者会の出席率向上や広報の充実に努める	・学校方針の周知徹底 ・保護者・生徒への広報内容や方法の改善	C	キッズサインの導入で、全体に周知を行ったが、システムの活用までには至っていない。更なる広報活動に努めたい。
特別支援教育	インクルーシブ教育に根ざした教育	特別支援教育推進委員会にて研修や生徒の把握、理解を行う	多様な個性・特性がある生徒を理解する。協議の上、対応を	・関係校、関係機関と十分に連携 ・個別の教育支	A	年9回、委員会を行い、生徒の様子や困り感について共通理解を深めること

	活動の推進		検討する	援計画・指導計画の立案		ができた。学年での気になる生徒の見守りも行った。
		特別支援教育支援員の活用を含めた学校全体の支援体制の充実	支援対象生徒とその周囲の生徒がともに安心できる環境整備（理解推進・職員の対応力向上）	・職員研修の推進 ・保護者・生徒への広報及び周知 ・対象生徒保護者との連携	A	移動教室の支援や生徒との面談等、特別支援教育支援員と連携ができた。SSWやSC等とも連携しながら、保護者対応も円滑にできた。個別の支援計画や指導計画を活用した計画的・組織的な支援の在り方について検討したい。
教育課程	「確かな学力」を育む指導・評価	「確かな学力」を育む面接指導、レポート指導、評価方法等の研究・改善	通信制課程におけるアクティブ・ラーニングの推進について研究	・教科別の研修会実施 ・レポート改訂及びレポート添削事例集の作成 ・校外研修への参加 ・他県の情報収集	A	「レポート改善研修」を基に、次年度へ向けたレポート作成に取り組んだ。レポート添削事例集を作成した。近隣小中学校の授業見学に全員が参加した。九通研では地歴公民科が発表し、他県の情報収集ができた。
職員研修	信頼される「通信制」であるために	通信制業務に係る教職員の資質向上	個人の能力向上と業務の協働化を図る	・教務支援システム等の基本業務研修の徹底 ・個別研修の実施	B	朝会連絡で頻繁に基本業務の周知・説明を行うとともに、主に周囲の職員同士で個別にOJTによるスキルアップを図った。
		教職員として必要な資質の向上	三課程合同研修会、外部の研究授業等への積極的参加	・校内研修内容の充実 ・研究授業の実施 ・校外研修の参加推進	B	校外研修等に積極的に参加し、資料等の情報をパソコン上で共有した。また研修・研究発表の内容を校内研修・研究授業として実施した。3課程合同で教育の情報化・人権教育研修を実施した。
地域連携	熊本地震の教訓を踏まえた、防災意識の高揚と地域との連携の強化（コミュニティ・スクールなど）	防災意識の高揚及び地域と一体となった災害時の連携体制の推進	地域と連携を強化した避難所運営の充実 生徒・職員の防災対応能力の向上	学校運営協議会の開催 ・学校安心メール登録 ・安全点検、避難訓練、職員研修の実施	B	運営協議会により地域との連携をさらに深めた。学校安心メール登録者及び直接連絡者を把握し連絡体制を確立した。

	化		生徒・保護者に対する防災への関心・理解の向上	・各教科の学習内容に関連した防災教育 ・防災関連情報チラシの年間定期発行		通行禁止箇所を設定する等、現実に近い形での防災避難訓練を実施した。年間を通じ防災通信を定期発行した。
--	---	--	------------------------	---	--	--

4 学校関係者評価

- (1) 全体的に、細やかで行き渡った指導がなされている。
- (2) 学力向上や心身の成長に対する、本課程における評価の在り方について検討して欲しい。
- (3) 保護者との連携については信頼関係を基礎とした丁寧な対応が重要であり、生徒や保護者との面談においてしっかりと傾聴しながら内容の濃いものに深めて欲しい。

5 総合評価

- (1) 特別支援教育推進委員会の活性化により、生徒の状況把握と情報共有とともに支援員・SC・SSWとの連携が図られ、生徒への支援が充実した。
- (2) 生徒会執行部の活発な活動および各行事等への主体的・積極的な関わりにより、学校の活性化に大きく貢献するとともに生徒自身の主体性の涵養に繋がっている。
- (3) レポート提出に向けた自学自習や学習内容の質問に訪れる生徒が増加している。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 新学習指導要領への対応と新たな教育課程の編成に関する調査・研究を行うとともに、レポートの改訂、添削指導と評価の充実に継続的に取り組み、主体的・対話的で深い学びを推進する。
- (2) 自らの進路に対する意識の高揚を図り、早期の取組や学習会参加の呼びかけを推進し、進路指導の充実を図り、進路目標の達成に繋げる。
- (3) 生徒の検診項目の充実を図るとともに、検診受診率を向上させ、生徒の健康管理の推進を図る。